

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

# ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり  
vol.  
196  
2021.9  
学びから行動へ、行動から学びへの循環



活動日には各地から「ひのぼらねっと」のメンバーが集まります

## 特集

# 震災をきっかけに育まれた 地域のつながり

日野ボランティア・ネットワーク

- 04 私たちの活動をご紹介します！  
要約筆記の会・白うさぎ(鳥取市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報  
(9・10月)
- 23 社会教育・生涯学習担当者紹介(鳥取市)
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとするで～





鳥取県西部地震展示交流センターで取材。左から福井さん、杉原さん、松田さん、山下さん

## 震災をきっかけに育まれた、地域のつながり

# ～日野ボランティア・ネットワーク～

鳥取県西部地震<sup>※(1)</sup>をきっかけにつなげた、地域に住む人を見守り、見守られる訪問活動。日野ボランティア・ネットワークの活動について、メンバーのみなさんにお話を伺いました。

### 偶然が必然に

鳥取県日野郡日野町は、岡山県・島根県との県境に近い、山あいの町。この町が、日野ボランティア・ネットワーク(以下、「ひのぼらねっと」という)の活動拠点です。

昨年からはひのぼらねっとの2代目代表を務めるのは、鹿児島県出身の山下弘彦さん。旅の途中で鳥取県西部地震に遭遇した山下さんは、地震発生から一か月後に、テレビで日野町のボランティアが足りないことを知り、災害ボランティアセンターに連絡しました。「実は初めて災害ボランティアに参加したんですよ。東京での仕事を辞めて、たまたま旅の途中で。米子駅で食事をしていました。あの時、揺れを経験していなかったら、参加しなかったんじゃないかな」と当時を振り返ります。「よく、『どうして移住されたんですか?』って聞かれるんですけど、移住した感覚はなくて。どちらかというと、ボランティアに参加した後も被災後の調査や報告書の作成で日野町を行き来するうちに、居ついてたという感じ。やることがいっぱいあったんですね」と笑います。

そんな山下さんと一緒に話をしてくださったのは、結成当初から事務局長を務める松田暢子さん。松田さんは地震直後にできた災害ボランティアセンターで、ボランティアの受け入れを担当していました。「地震直後は、全国からボランティアがどっと押し寄せるようになってくれる。でも一か月後は、だんだんと帰ってしまう時期で。ブルーシートを張ったところが風でめくれたり、することが山ほどあるのに人手が足りない時期だったから、山下さんが来てくださって本当にありがとうございました」と話します。

松田さんや山下さんたちは被災後の調査を行っていく中で、「高齢化の進む日野町を、誰もが気軽に助け合い、見守り見守られ、安心感を持てる地域にしたい」という強い思いが芽生えたそうです。そうしてボランティアでつながった人を中心に声をかけ、平成13年に、ひのぼらねっとを立ち上げました。

ひのぼらねっとでは、鳥取県西部地震の経験を伝え、防減災活動の取組支援を行いながら、日野町で75歳以上の高齢者の家を、誕生日プレゼントを持って訪問し、困りごとがないか確認する活動をしています。

## ※ (1) 鳥取県西部地震

平成12年10月6日、鳥取県西部を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生。鳥取県西部を中心に、県内各地、岡山県、島根県にも甚大な被害をもたらしました。日野町は、この地震で最大震度6強を観測しましたが、近所の人による気付きや声かけ等もあり、死者はありませんでした。



ひのぼらねっこの事務所がある鳥取県西部地震展示交流センター。常時、地震や防災に関するパネルや資料が展示しており、誰でも訪れることができます。

## キーワードは「つながり」

ひのぼらねっこの訪問活動には、友達を連れてきたり、子どもを連れてきたり、参加したい人はいつでも参加できます。また、プレゼントづくりに関わってもらうことで、ボランティアに参加していると実感してもらうなど、訪問以外でも活動の場を広げ、いろいろな人がつながる工夫をしています。

さらに、町外からも災害を経験したり、災害復興の支援をしたことがある人などが「ひのぼらねっこの活動を参考にしたい」と訪問活動に参加されることも。その場合は、社会福祉協議会の元職員や、看護師など経験豊かなメンバーと一緒に活動してもらいながら、活動の趣旨やどういう経緯で始まったかなどを伝えます。このことがメンバー自身の気付きや活動の捉え直しの機会にもなっています。

## 20年で培った、受け入れられる存在

訪問活動の目的は、日常の困っていることを聞き、福祉機関や近所の見守り等につなげて課題を解決することなどをとおして、助け合える関係を作ること。また、実際に高齢者一人ひとりの家を訪問するため、地域の課題を把握できるというメリットもあります。「年配の人たちは、自分で何とか解決しなきゃっていう思いが強い。人に迷惑をかけちゃいけないっていうのが染み付いている。その垣根が徐々に取れてきた」と話す松田さん。「知らない人は警戒され、ましてや、家へ上がらせてもらうことは、すごく難しいこと。それができるのは、ひのぼらねっこのいろんな機関と連携し、活動を継続してきたから」と続けます。20年前は「あ

んたらに見てもらわんでも、自分らのことは自分でするわ」と言っていた人が、今では待っていてくれるようになったというエピソードも。「年齢を重ねると、家でお祝いをしてもらう機会も少なくなる。孫や親戚が離れて暮らしていても、贈り物が届く人もいれば、そうでない人もいる。お祝いをすることだけでもとても嬉しいことなんじゃないかって話になって」と訪問活動のきっかけについて振り返ります。

## 見守り、見守られて

70代の方が、元気に畑仕事をする90歳の人を訪問した際には、「自分もあになりたい!」と、勇気づけられて帰ってくることも。「見守りに行ってるんだか、見守ってもらいに行ってるんだか、わからなくなる感覚もあって。でもそうやって、なにかをするわけじゃなくても、お互いのことを気にかけることが、助け合いにつながっているんです」と山下さん。

支えたり支えられたり、ボランティア意識を他の人に広めたり、地域の事に協力してくれるようになったり。この町には20年で着実に育まれてきた「つながり」があります。

## 活動についてのコメント



すぎはらかずえ  
メンバーの杉原和江さん  
(活動歴12年)

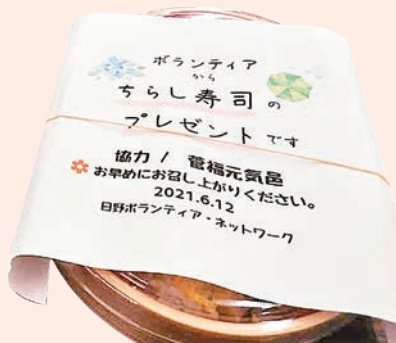
私は、仕事で学んだことをボランティアで活かせたらと思い、この活動に参加しました。訪問活動は誕生日にするので、受ける側にとっては年に一回。でも、前年度の様子を記録しているんですよ。体調が優れなかったとか、入院していたとか書いてあると、翌年行くときに「お身体の調子はいかがですか?」って話題にすることができたり、運転免許を返納していたら、どうやって病院に通うとられるかとか、大切なところにも目を向けられる。だから、記録を取るのはとても重要なんですよ。

これまでこの活動をやめなかったのは、中心になってやってくれる山下さんと松田さんが「無理しなくてもいいよ、来れるときで」って言うってくれるから。安心して所属できるっていうのは大きな魅力。ここは居心地がいいんですね。



## 誕生日訪問のプレゼント例

地元の食文化を伝承する  
団体が用意した、ちらし寿司



鳥取県立日野高等学校の生徒が  
作成したシトラスリボン※(2)

メンバー手作りの  
立体バースデーカード



開くと



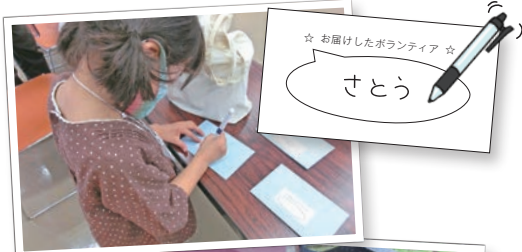
プレゼントは毎月、町内のさまざまな団体に作成を依頼。食べ物やマグカップ、ランチョンマット、木工小物入れなど種類は豊富で、手作りの真心がこもったものばかり。月によってはメンバーもプレゼント作りに挑戦します！

バースデーカードの下には、困ったことがあったらすぐに電話できるように、ボランティアセンターの電話番号が書いてあります。

※(2) シトラスリボン…新型コロナウイルス感染症の患者やその家族、医療従事者、エッセンシャルワーカーなどへの、新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見の防止を目的とする「シトラスリボンプロジェクト」のシンボル

## 誕生日訪問の流れ

- ① 公民館に集合。班に分かれて訪問先を確認し、カードの裏面に訪問者の名前を記入（訪問したメンバーの名前を覚えてもらうことができ、思い出も生まれます。）
- ② 昨年の様子を確認してから訪問
- ③ 訪問先でプレゼントの説明をしながら渡す。近況や困っていることを確認
- ④ 公民館に戻り、訪問先で気付いたこと、変化等を班ごとに振り返りシートに記入
- ⑤ 山下さん、松田さんら聞き取り担当と振り返りシートを確認



連絡先

日野ボランティア・ネットワーク

〒689-4503 日野郡日野町根雨130-1  
日野町山村開発センター 2階  
鳥取県西部地震展示交流センター  
ホームページ <http://www.hinovnet.org>  
電話 (FAX 兼用) 0859-72-2220  
メールアドレス [hinovnet@ybb.ne.jp](mailto:hinovnet@ybb.ne.jp)



ホームページ  
QRコード



# 私たちの活動を紹介します

xx

鳥取市・岩美郡・八頭郡

## 要約筆記の会 「白うさぎ」

代表：三浦 <sup>みうら</sup> <sup>としき</sup> 敏樹さん  
 <連絡先> 0857-53-2056 (三浦さん)

<設立年> 平成6年  
 <会 員> 20名  
 ○団体への加入方法  
 代表者または事務局に申し込みをお願いします。  
 ○入会金：なし 年会費：1,500円



例会等でも要約筆記による情報保障をしています。  
 日時：毎月第4日曜日 10：00～12：00  
 場所：さわやか会館又はさざんか会館

xx

### 社会とのつながりの助けとして

鳥取県難聴者・中途失聴者協会 東部支部の会員さんからの「社会参加をしたいが、手話はわからないし、口の動きを見て判断するのも難しい。『耳がわり』となっていきたい」という強い要望に応じて発足。要約筆記をとおして聴覚障がい者への支援と交流を図るとともに、会員の要約筆記技術の向上と親睦を目的としています。

### 要約筆記とは

「要約筆記」は、話の内容をその場で文字にして聴覚障がい者に伝える通訳です。話の内容を要約して筆記することから『要約筆記』といいます。

聴覚障がい者の情報保障手段として、講演会や会議などで要約筆記を行うほか、県に登録している会員は、通院や個人懇談などの個人派遣依頼にも対応しています。

紙、ノート、ホワイトボード等にペン等で手書きした文字を直接または OHC（オーバーヘッドカメラ）で撮影し、液晶プロジェクターでスクリーンに投影する「手書き要約筆記」と、パソコンに入力した文字をスクリーンやテレビに投影する「パソコン要約筆記」があります。



### 活動する上で大切にしていること

「要約筆記」は、話を正確に聞き取り、要点をつかんで短い文にまとめ、素早く書きます。集中力がなくて緊張の連続なので、短時間で交代しながら書きます。このような大変な作業を支えているのは「聞こえない人たちに、一言でも多く伝えたい」という熱い思いがあるからです。そして「少しでも聴覚障がい者の方々の社会参加のお役に立てれば…」と思いつながりながら細く長く活動を行っています。

人生の途中で聴力を失った方の意思疎通や、専門用語が多い場面では、文字で表せる要約筆記が有効です。手話より敷居が低いので、ぜひ一度要約筆記を体験してみませんか。

一緒に活動していただける仲間を募っています。

- その1** 文字が書けること。漢字を書くのが苦手でもOKです！
- その2** 聴覚障がい者の方とふれあう気持ち（心）があること

以上2つをお持ちの方であれば、どなたでも始めることができます。  
 できることから、一緒にやってみませんか。

### 会員 T さん 作

『筆記者の 明るい笑顔に 支えられ  
 今日の例会 あっという間に終わるね』

